

瀧口 政満
Masamitsu
Takiguchi

<略歴>

- 1941 満州奉(現瀋陽)に生まれる
- 1944 肺炎による高熱のため聴力を失う
- 1961 ジュリー工芸研究所(東京国立)に就職
- 1965 釧路工芸企業組合に入り木彫を本格的にはじめる
- 1967 帯広みかけ学園職業指導員となる。阿寒湖畔に転居
- 1970 釧路、東京、大阪等で14回の個展開催
- 1974 美術研究のためヨーロッパ人旅
- 1983 釧路市立博物館開館記念にレリーフ「想い」を制作
- 1984 阿寒湖ビジターセンターに「オジロワシ」制作
- 2009 釧路郷土作家展「母と子」出品
- 2012 あかん湖鶴雅リゾートスパ鶴雅ウイングス内ギャラリー「ニタイ」に作品30点常設展示
- 2012 AINU ART - 風のかたりべ展出品
-13 (松浦武四郎記念館、北海道近代美術館)
- 2014 イランカラフテキャンペーンの一環で「ウレシパモシリ
北海道イランカラフテ像」の「イクパスイ」をJR札幌駅
に設置

<受賞歴>

- ・釧路新聞社芸術(1987)
- ・北海道ろうあ連盟第31回福祉大会文化賞(1989)
- ・厚生大臣賞受賞。天皇皇后に拝謁。(1991)
- ・北海道知事賞(2000)
- ・釧路市文化賞(2016)

“木もただだまっすぐではなくて、ちよっと曲がっているというのをみるとすぐ魂を感じる…「生きてるな！」という”

“風を感じてその風を自分で感じるように伸びあがる”

“湿り気が少し残っているほうが、作業をしやすい。まったく乾かない、ちよっと湿り気が残っているときに彫るということが大事です”

“風を感じるためには足をしっかり大地に踏みしめる…頭のほうから風を感じ空のほうに伸びる感じで”

“どういところで重心をもっていくか…足の位置が変わってしまうとバランス崩れるので、足にはかなり気をつかいます”

“北海道に来て間もない頃の作品…妻のイメージと風が好きなので”

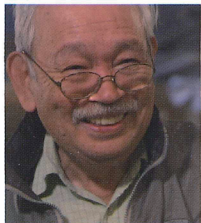
“木を彫るときに本当に大変で。作業中本当に苦しいんです。でも作品が出来上がってそれを見るときすごく嬉しい…喜びが変わります。”

“瀧口にふさわしい作品を創りたいなって…瀧口の世界があるんだなって風に見てわかってもらえるようになりたい”

わざ
技

Hands and Hearts
vol.1





荒木 繁
Shigeru
Araki

<略歴>

- 1940 石狩に生まれる
- 1955 兄から木彫を教わり、以来木彫工芸を続ける
- 1968 兄弟で「あらか木彫製作所」を設立。アイヌの木彫を職とする
- 1999 アイヌ文様木器コレクション「二人展」開催
- 2003 機動職業訓練木材工芸科の講師就任(2004まで)
- 2007 平成19年度アイヌ工芸品展「アイヌからのメッセージ2007 ー現在から未来へ」出品

<受賞歴>

- ・北海道アイヌ民芸品コンクール奨励賞(1977、1994、1997、1999-2001)
- ・北海道アイヌ民芸品コンクール優秀賞(1973-1975、1986、1988、1990、1993、1996)
- ・北海道アイヌ民芸品コンクール北海道知事賞(1995)
- ・北海道アイヌ伝統工芸展優秀賞(1996)、奨励賞(1997、1999-2001)
- 審査員特別賞(1998)、北海道議会議長賞(2002)
- 北海道議会議長賞(2004)
- ・アイヌ工芸作品コンテスト木工芸部門：優秀賞(2002)
- 一般部門：奨励賞(2003-2011)、優秀賞(2013-2014)

“熊は昔親父が彫っていたからね”

“兄貴が18くらいでもって、熊彫りやるのを手伝いしてた。見て覚えれちゅうんじゃないんだけど、そういう感覚だね”

“これ(ノミ)が一番最初に使っていたやつ。俺が彫りはじめて60年くらいになるから、50年ちょっとは使っている。やっぱり何十年も使っていれば、癖も覚えてるしね”

“今、熊を彫る人が一年二年でできないから、だんだんいなくなって、コピーは一年二年でできるけど、自作のものををつくるったら十年はかかるね”

“時代時代で熊もね変わると思うんだよね…若者なりの個性を出して、やればいいなって思ってるんだけど”

“俺、今生きてるのがお客さんのおかげだと思うよ”

“丁寧な彫れば彫るほどそれなりのことかえてくるからね”

“今の技術で最高のものを作ったと思います。”

—これがうちの親父が彫ってた丸彫—継承したらいいなと思って…長年やっててこれに落ち着いたっちゅう感じだね”



貝澤 雪子
Yukiko
Kaizawa

<略歴>

- 1941 北海道日高村字千栄に生まれる
- 1960 貝澤守幸氏と結婚し、旭川市でアイヌ工芸品を製作
- 1962 平取町二風谷で民芸品製作を始める
- 1964 企業組合二風谷民芸の設立に協力し、平取町二風谷で民芸店を営む

<受賞歴>

- ・北海道アイヌ伝統工芸展伝統工芸部門優秀賞(2002、2009、2011)
- ・アイヌ工芸作品コンテスト伝統工芸部門：優秀賞(2005)
- 一般部門：優秀賞(2011)、入選(2013)
- ・日本伝統工芸染織展入選(2008、2015、2016)
- ・全国伝統的工芸品公募展テーマ賞(2013)

“染めはじめたのは二十何年前からですね…すごい鮮やかな青とか緑とか出したいんですけど、まだそこは勉強中です。これからまだまだ挑戦していろんな色を出したいと思います”

“染めるのはね、二回と同じ色が出ないということ…最初なんて何もわからなくてやった時は、失敗、失敗、失敗して、あ、どうしたらいいんだろうなって思ったりして”

“幸せなのは、私の年になったら働く場所もなければみんな大変な思いしてる時に、私はこれがあって幸せって思ってる”

“最初はもうダメって言って切ってみたんですけど、今はもう、全然調整してやります。毎日毎日、少しずつでも積み重ねていくと仕事が色んな事を教えてくれると思うの”

“もうやりたくて、やりたくてどうしようもなく、織らせてもらって。そうしたら最初でも同じくらいの目で織れたものだからね、それがおもしろくて”

“反物は耳が命なので、耳をまっすぐなるべくきちっと”

“ほんとに、これは根気の問題”

“人間は何のために生まれてきたってね、働くために神様が世の中に出してくれただって。そういう、父親なの。でもそういう親がいたから私もいるって思ってる感謝してるけどね”

“仕事が仕事を教えてくれる”

“今でもね、これが木の皮がって思うことがいつもある…自然のものでこういう色が出るっていうことは、本当感動がありますね”

“この次には良くしよう、この次には良くしようずっと必ず思うことはそれ。でも、上がって見たら変わらないって感じ。ほんとに、ほんとに難しい”

“ただ夢中になってやっているだけ…死ぬまで勉強”